

厳島神社世界遺産登録二十周年記念 第二十二回宮島厳島神社奉納古武道演武大会を終えて

広島県支部
大会実行委員長

藤江 成美

この度の大会は、厳島神社世界遺産登録二十周年記念大会と銘打つての奉納演武と成りました。世界遺産登録二十年記念行事の一翼を担って欲しいとの依頼を受けまして支部会員一同は、その誉に感激し大会を今まで以上に立派な大会にするべく、考察を重ねました。

支部としてどの様な大会にする事が望ましいかを考え抜き、至った結果は（武人による真の奉納演武）を行なえば良いと言う事で有りました。今回の依頼も昨年の大会の評価を得ての依頼で有りますので、昨年同様に（礼に始まり礼に終わる）大会を更に充実させれば良いと言う考えに至りました。奇を衒う事無く、武道の本道を求め行おうのと言う事で支部は一致団結し、大会準備に勤しましました。一番頭を悩ましたのが、開催時期の事で有りました。七月に大会を行いますのは恐らく初めての事で有ります。この時期の猛暑は、最早尋常では有りません。暑さ対策に皆の知恵を絞りました。朝座屋（控室）は朝一番から神社のご厚意でクーラーを入れて頂ける事に成りました。涼を取れるのは神社内ではこの場しか有りませんので有り難い事でありました。飲食もこの場でしか出来ませんので、飲物も昨年の四倍の量の麦茶、ポカリスエットを用意しました。演武の状況を観て、涼を取る休憩時間も取る事としました。そして苦肉の策として思いついたのが（冷たいオシボリ）で有りました。これだけは何とか祓殿の中での使用をお願いしまして神社の許可を頂く事が出来ました。ある種、之

が一番好評で有ったかもしれません。左程に今回の大会は猛暑の中の大会で有りました。総勢約八十名の大会参加者で有りましたが、誰一人として、待機して貰いました看護師の手を煩わせる者も有りませんでした。看護師さんも少し手持無沙汰で有ったかもしれませんが、主催者としては、ホッと胸を撫で下ろした次第であります。無論怪我人も無く、無事に傷害保険も掛け捨てと成りました。演武内容につきましては、実行委員長講評としてお話ししました様に、お世辞ではなく参加者すべてが（一所懸命）に遣われていた良き奉納演武で有ったと心底感じております。これも又ある種暑さの恩恵で有ったかもしれません。暑さに打ち勝つべく、皆が必死に自身の平素の稽古の儘に夢中に遣った。結果、昨年以上に熱く練れた演武に至ったのではと考えております。神社に向く作法につきましても、受付をした者達が、（昨年以上に身なりがきちんとしていました）との感想を大会後の直会の席で感想を述べておりました。神社関係者に取りましてもこの事は嬉しき事柄で有った様です。観るべき処は観てくれています。今後とも厳島神社の催しとして無くては成らぬ大会と言われる様に精進を重ねて行く決意を固めた広島県支部会員でありました。